

〈別表 6〉

令和 9 年度三重県立高等学校入学選抜でスポーツ特別枠選抜を実施する
高等学校の「募集競技」「応募資格」「実技検査」「選抜方法」一覧

《いなべ総合学園高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
レスリング競技（男子）	（総合学科 5 人以内）
レスリング競技（女子）	（総合学科 2 人以内）
バスケットボール競技（女子）	（総合学科 5 人以内）

応 募 資 格
〔共通項目〕 (1) 本校の部活動に 3 年間継続して所属するとともに、学業に励み、部活動と学習活動を両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者 〔競技別項目〕 （レスリング競技（男子）、（女子）） 全国大会に出場している選手である者か、これに準ずる優れた能力を有する者 （バスケットボール競技（女子）） 県大会で団体ベスト 4 以上の中心選手である者か、これに準ずる優れた能力を有する者

検 査	実 施 概 要		
実技検査	共通項目	2 5 m往復走、反復横跳び、立ち幅跳び、長座体前屈	
	競技別項目	レスリング競技（男子） レスリング競技（女子）	レスリングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
		バスケットボール競技（女子）	バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 ① 評定（第 3 学年の各教科の評定の合計） 4 5 点満点 ② 学級活動・生徒会活動、取得資格、 スポーツ・文化・地域活動の実績 最高 1 0 点 (2) 面 接 A、B、C、D の 4 段階で評価し、点数化する。（1 0 点満点） (3) 実技検査 9 0 点 2 選抜方法 (1) ①の評定得点と(1)②、(2)、(3)の合計点数の 2 つをもとに、面接の評価、調査書、「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《朝明高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
自転車競技（男子）	（普通科 3人以内、ふくし科1人以内）
レスリング競技（男子）	（普通科 3人以内、ふくし科1人以内）
ラグビー競技（男子）	（普通科 4人以内、ふくし科1人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 経験の有無にかかわらず、本校の部に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	共通項目	次の6種目の中から3種目を選択する。 (1) 握力 (2) 長座体前屈 (3) 反復横跳び (4) 上体起こし (5) シャトルラン (6) 立ち幅跳び
	競技別項目	自転車競技（男子） エアロバイクや学校所有の競技用自転車を用いた実技検査など
		レスリング競技（男子） レスリングの基本動作を含むマット運動など
		ラグビー競技（男子） ラグビーの基本動作を含むパス、ランニングなど

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 A、B、C、Dの4段階で評価する。 (3) 学力検査（国語） A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、C、Dの4段階で評価する。
2 選抜方法 (1) 第1段階 調査書得点の順位が普通科における前期選抜の募集人数の100%以内であることと、面接、学力検査がともにB段階以上であること、実技検査の評価がA段階以上であることを満たす者を選抜する。 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く、全ての受検者の中から総合的に選抜を行う。

《四日市四郷高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
アーチェリー競技（男子）	（普通科 4人以内、普通科・スポーツ科学コース1人以内）
アーチェリー競技（女子）	（普通科 4人以内、普通科・スポーツ科学コース1人以内）

応 募 資 格
（アーチェリー競技（男子・女子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 経験の有無にかかわらず、本校の部活動に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	アーチェリー競技（男子） アーチェリー競技（女子）	実射など、アーチェリーの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法			
1 選抜資料の取扱い			
(1) 調 査 書	点数化する。		
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）		90点満点
	学級活動・生徒会活動、スポーツ・文化活動の実績、取得資格	最高	30点
	合 計		120点
(2) 面 接	次の3つの項目について評価し、点数化する。（30点満点）		
	・ 学習活動や進路に対する目的意識		
	・ 部活動や特別活動に対する興味・関心、意欲		
	・ 面接態度		
(3) 学力検査	国語（50点満点）		
(4) 実技検査	A、B、Cの3段階で評価する。		
2 選抜方法			
(1)～(3)の合計点数、実技検査の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。			

《四日市工業高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)		
陸上競技 (男子)	(機械科、電子機械科、電気科、電子工学科、自動車科)	各科 1 人以内)
テニス競技 (男子)	(機械科、電子機械科、電気科、物質工学科、自動車科)	各科 1 人以内)
バスケットボール競技 (男子)	(機械科、電子機械科、電気科、電子工学科、物質工学科)	各科 1 人以内)
ハンドボール競技 (男子)	(機械科、電子機械科、電子工学科、物質工学科、自動車科)	各科 1 人以内)
ウエイトリフティング競技 (男子)	(電子機械科、電気科、電子工学科、物質工学科、自動車科)	各科 1 人以内)
ラグビー競技 (男子)	(機械科、電気科、電子工学科、物質工学科、自動車科)	各科 1 人以内)

応 募 資 格
下記の〔競技別項目〕(1)又は(2)の資格を満たし、かつ〔共通項目〕(3)及び(4)の資格を満たす者 〔競技別項目〕 (陸上競技 (男子)) (1) 中学校の3年間における県大会で個人ベスト8以上の選手である者か、これに準ずる記録・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者 (2) 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者 (テニス競技 (男子)) (1) 中学校の3年間における県大会で個人ベスト8以上の選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者 (2) 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者 (バスケットボール競技 (男子)、ハンドボール競技 (男子)) (1) 中学校の3年間における県大会で団体ベスト8以上の中心選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者 (2) 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者 (ウエイトリフティング競技 (男子)) (1) 中学校の3年間における県大会で個人ベスト8以上の選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者 (2) 部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者 (ラグビー競技 (男子)) (1) 中学校の3年間における県大会で団体ベスト4以上の中心選手である者か、これに準ずる実績・運動能力を有し、その競技の能力に優れている者 (2) 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、部活動に対する強い意欲・向上心を有し、その競技の能力に優れ、他の生徒の模範となる者 〔共通項目〕 (3) 応募する工業の専門科目に興味・関心を持ち、部活動と学習活動を両立させる強い意志がある者 (4) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	陸上競技 (男子)	陸上競技のうち、トラック競技、跳躍競技の種目を中心に実技検査を行う。
	テニス競技 (男子)	テニスの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	バスケットボール競技 (男子)	バスケットボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	ハンドボール競技 (男子)	ハンドボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	ウエイトリフティング競技 (男子)	ウエイトリフティングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	ラグビー競技 (男子)	ラグビーの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

《四日市工業高等学校》

選 抜 方 法							
1	選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table> <tr> <td>評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）</td><td>90点満点</td></tr> <tr> <td>評定以外の記載事項</td><td>最高 20点</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>110点</td></tr> </table> (2) 面 接 A、B、Cの3段階で評価する。 (3) 学力検査 数学（50点満点）の得点をA、B、C、Dの4段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、Cの3段階で評価する。	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点	評定以外の記載事項	最高 20点	合 計	110点
評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点						
評定以外の記載事項	最高 20点						
合 計	110点						
2	選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項並びに実技検査を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 調査書の得点の順位が各学科における前期選抜の募集人数の60%以内であることと、面接及び学力検査の評価がともにB段階以上であること、かつ実技検査の評価がA段階であることを満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く受検者のうち、実技検査の評価がA段階である者						

《四日市中央工業高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)
水泳競技(水球) (男子) (機械科 1 人以内、 電気科 1 人以内、 化学工学科 1 人以内、 都市工学科 1 人以内、 設備システム科 1 人以内) 柔道競技 (男子) (機械科 1 人以内、 電気科 1 人以内、 化学工学科 1 人以内、 都市工学科 1 人以内、 設備システム科 1 人以内) サッカー競技 (男子) (機械科 1 人以内、 電気科 1 人以内、 化学工学科 1 人以内、 都市工学科 1 人以内、 設備システム科 1 人以内) ウェイトリフティング競技 (男子) (機械科 1 人以内、 電気科 1 人以内、 化学工学科 1 人以内、 都市工学科 1 人以内、 設備システム科 1 人以内)

応 募 資 格
(水泳競技(水球) (男子)) 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に つけ、文武両道を目指し実行できる者 (2) 全国ジュニアオリンピック水泳競技大会出場選手または、全国ジュニアオリンピック水泳競技大会予選 会に出場した者 (柔道競技 (男子)) 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に つけ、文武両道を目指し実行できる者 (2) 柔道連盟や協会及び社団法人の主催する大会において地区の予選大会(市大会等)を勝ち上がり県大会 (各都道府県大会)に出場した者 (サッカー競技 (男子)) 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に つけ、文武両道を目指し実行できる者 (2) チームの中心選手として活躍し、かつリーダーシップが取れる者 (ウェイトリフティング競技 (男子)) 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、本校において学業に励み、当該学科の専門性を身に つけ、文武両道を目指し実行できる者 (2) 全国大会、ブロック大会出場または、県大会に出場した者

検 査	実 施 概 要
実技検査	水泳競技(水球) (男子) (1) シャトルスイム (2) ボールコントロールからシュートまで (ゴールキーパーは10kg支重時間) ※急激な気温の変化や天候の変化により検査会場が使用不可の場合は、 (3)、(4)を行う。 (3) シャトルラン (4) ボールコントロールからスローイングまで
	柔道競技 (男子) (1) 投げ技(打ち込み・投げ込み) (2) 乱取り(立ち技)
	サッカー競技 (男子) (1) ステップワーク (2) パス&コントロール (3) シュート (4) ヘディング (5) ゲーム形式(参加人数により調整) 以上5項目における実技検査から、スキル・戦術・フィジカル能力につ いて評価する。 (ゴールキーパーはキャッチング、セービング、パンチング、ボールコ ントロール、キックの能力について評価する。)
	ウェイトリフティング競技 (男子) スナッチ、クリーン&ジャーク、スクワットなどの基本的技能・動作の 実技検査を行う。

《四日市中央工業高等学校》

《調査書・作文・実技検査》

選 抜 方 法			
1 選抜資料の取扱い			
(1) 調 査 書	点数化する。		
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）		4 5 点満点
	評定以外の記載事項	最高	2 0 点
	合 計		6 5 点
(2) 面 接	A、B、Cの3段階で評価する。（2 5 点満点）		
(3) 作 文	A、B、Cの3段階で評価する。（1 0 点満点）		
(4) 実技検査	A、B、Cの3段階で評価する。		
2 選抜方法			
(1)～(3)の合計点数、実技検査の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。			

《四日市商業高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)	
陸上競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
テニス競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
バスケットボール競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
ハンドボール競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
空手道競技 (女子)	(商業科 4 人以内)
柔道競技 (女子)	(商業科 4 人以内)

応 募 資 格
〔各競技共通〕 本校の部活動に所属して活動を3年間継続するとともに、学業と両立させる強い意志がある者 (陸上競技 (女子)) 個人で県大会8位以内の選手か、団体 (リレー・駅伝) で県大会3位以内の中心選手、又は同等の優れた能力を持つ者 (テニス競技 (女子)) 県大会で団体ベスト4以上の中心選手、個人ベスト8以上の選手であるか又は同等の優れた能力を持つ者 (バスケットボール競技 (女子)、ハンドボール競技 (女子)) 県大会で団体ベスト4以上の中心選手であるか、又は同等の優れた能力を持つ者 (空手道競技 (女子)) 県大会でベスト8以上の選手であるか、又は同等の優れた能力を持つ者 (柔道競技 (女子)) 県大会でベスト8以上の選手であるか、又は同等の優れた能力を持つ者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	陸上競技 (女子)	(1) 1000mジョグ ペースは指定しない。 (2) 120m走×2 タイムは測定しない。 (3) 立ち幅跳び×2 距離計測する。
	テニス競技 (女子)	ストローク、ボレー、サーブの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	バスケットボール競技 (女子)	ゴール下連続シュート、フリースロー、ドリブルターンの基本技術の実技検査を行う。
	ハンドボール競技 (女子)	シャトルラン、立ち幅跳びによる基本的な運動能力とシュート、フェイントによる基本技術の実技検査を行う。
	空手道競技 (女子)	空手道の基本的な動作 (突き・蹴り・受け)、形、組手の基本的な動作の実技検査を行う。
	柔道競技 (女子)	柔道の基本的な動作 (受け身、投げ技の打ち込み、投げ込み) の実技検査を行う。

選 抜 方 法		
1 選抜資料の取扱い		
(1) 調 査 書	点数化する。	
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）	90点満点
	評定以外の記載事項	最高 20点
	合 計	110点
(2) 面 接	A、B、Cの3段階で評価する。	
(3) 作 文	A、B、Cの3段階で評価する。	
(4) 実技検査	A、B、Cの3段階で評価する。	
2 選抜方法		
次の各段階に該当する受検者について順に、調査書得点、面接・作文の評価及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。		
(1) 第1段階	面接及び作文の評価がともにB段階以上であることと、実技検査の評価がA段階であること の両方の条件を満たす者	
(2) 第2段階	第1段階で合格となった者を除く受検者のうち、実技検査の評価がA段階の者	

《白子高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)		
卓球競技 (男子)	(普通科 4 人以内)	
卓球競技 (女子)	(普通科 2 人以内、 生活創造科 2 人以内)	

応 募 資 格
〔各競技共通〕 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、本校の部活動に所属して3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志のある者

検 査	実 施 概 要
実技検査	卓球競技 (男子) 卓球競技 (女子) 次の技能・動作の実技検査を行う。 (1) フォアハンド・バックハンド (2) フットワーク (3) サービス・レシーブ

選 抜 方 法		
1 選 抜 資 料 の 取 扱 い		
(1) 学 力 検 査	A、B、C、D、E の 5 段階で評価する。	
(2) 面 接	A、B、C、D、E の 5 段階で評価する。	
(3) 調 査 書	点数化する。	
	評定（第 1 ～ 3 学年の各教科の評定を換算）	9 0 点満点
	評定以外の記載事項	最高 2 0 点
	合 計	1 1 0 点
(4) 実 技 検 査	A、B、C の 3 段階で評価する。	
2 選 抜 方 法		
(1)、(2)、(4)の結果と調査書得点をもとに、「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載内容を考慮し総合的に選抜する。		

《稲生高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
水泳競技（水球）（男子）	（普通科 3人以内、 体育科 1人以内）
なぎなた競技（女子）	（普通科 1人以内、 体育科 1人以内）
陸上競技（男子）	（普通科 4人以内、 体育科 1人以内）
陸上競技（女子）	（普通科 4人以内、 体育科 1人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕
（1） 該当競技の本校部活動に3年間継続して所属するとともに、学業に励み、部活動と学習活動を両立させる強い意志がある者
（2） 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者
（水泳競技（水球）（男子））
該当競技経験者または泳力を有し、水球競技の技術に関連するハンドボール部等の経験がある者
（なぎなた競技（女子））
該当競技経験者または剣道の経験がある者
（陸上競技（男子）（女子））
中学3年間で県大会・駅伝大会等でベスト8以上（各区分8位以内）の者か、チームの中心選手で、これに準ずる記録・運動能力を有し、その競技に優れた能力を有する者

検 査	実 施 概 要
実技検査	水泳競技（水球）（男子）
	(1) シャドースイム：クロールの技術 (2) パス：ハンドボールを使つてのパス (3) シュート：ハンドボールを使つてのシュート
	なぎなた競技（女子）
陸上競技（男子） 陸上競技（女子）	次の(1)、(2)のどちらかの実技を選択して行う。 (1) なぎなたの基本実技：八方振り、基本打突（打ち返し） (2) 剣道の基本実技：素振り、基本打突（打ち返し）
	次の(1)、(2)のどちらかの実技を選択して行う。 (1) 短距離種目・跳躍種目・投てき種目 ・400mジョギング＋100m走（計測なし） ※400mジョギングの後、100m走のスタート地点まで歩いて移動し、100m走を行う。 ・立ち5段跳び×2回（計測あり） ・メディシンボール投げ（2kg）前後 ×各2回（計測あり） (2) 中距離種目・長距離種目 ・1200mジョギング＋120m走（計測なし） ※1200mジョギングの後、120m走のスタート地点まで歩いて移動し、120m走を行う。 ・3000mペース走（ペースは各自で設定） ・300m×1本（計測あり）

学科・ コース名	選 抜 方 法
普 通 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 ・第3学年の各教科の評定の合計45点満点 ・スポーツ・文化活動・生徒会活動等における取組状況、実績、資格等 最高10点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 学力検査 国語(50点満点)の得点をA、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 2 選抜方法 (1)～(4)の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。
体 育 科	1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。(第3学年の各教科の評定の合計45点満点 調査書に記載されている事項 最高10点) (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 2 選抜方法 (1)～(3)の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《亀山高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
ウエイトリフティング競技（男子） （普通科 1人以内、システムメディア科 1人以内、総合生活科 1人以内）		
ウエイトリフティング競技（女子） （普通科 1人以内、システムメディア科 1人以内、総合生活科 1人以内）		

応 募 資 格
（ウエイトリフティング競技（男子）（女子）） 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 経験の有無にかかわらず、本校のウエイトリフティング部に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 (2) 学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者

検 査	実 施 概 要
実技検査	ウエイトリフティング競技（男子） (1) 立ち幅跳び (2) 30秒上体起こし ウエイトリフティング競技（女子）

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第3学年の各教科の評定の合計 45点満点） (2) 面 接 次の6つの項目について評価し、点数化する。（30点満点） ・ 本校を志望する動機 ・ 学習に対する意欲 ・ 中学校生活における諸活動 ・ 高校生活についての抱負 ・ 自己や社会問題への関心 ・ 面接態度 (3) 作 文 A、B、Cの3段階で評価する。 (4) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
2 選抜方法 (1)、(2)の合計点数をもとに、(3)、(4)、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。

《津商業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
ソフトボール競技（女子）	（ビジネス科	5 人以内）
バレーボール競技（女子）	（ビジネス科	5 人以内）

応 募 資 格
〔各競技共通〕 本校の部活動に3年間継続して所属するとともに、当該学科の専門性を身につけ部活動と学業を両立させる強い意志があり、学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者 （ソフトボール競技（女子）） 全国都道府県対抗全日本中学生大会の出場者 （バレーボール競技（女子）） JOCジュニアオリンピック全国都道府県対抗中学バレーボール大会の出場者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	ソフトボール競技（女子）	・ 反復横とび（2回計測） ・ （野手）ポジション別、捕球・スローイングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。 ・ （投手）ピッチングの基本的な技能・動作の実技検査を行う。
	バレーボール競技（女子）	・ 反復横とび（2回計測） ・ オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブの基本的な技術・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法			
1 選抜資料の取扱い			
(1) 調 査 書	点数化する。		
	評定（第1～3学年の各教科の評定を換算）		4 5 点満点
	スポーツ・文化活動、生徒会活動等における		
	取組姿勢、意欲、実績等	最高	1 5 点
	合 計		6 0 点
(2) 面 接	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。		
(3) 作 文	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。		
(4) 実技検査	A、B、C、D、Eの5段階で評価する。		
2 選抜方法			
(1)～(4)の評価、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。			

募 集 競 技（募集学科 募集人数）
セーリング競技（男子）（機械科 2 人以内、電気科 1 人以内、電子科 1 人以内、建設工学科 1 人以内）
セーリング競技（女子）（機械科 2 人以内、電気科 1 人以内、電子科 1 人以内、建設工学科 1 人以内）
バスケットボール競技（男子）（機械科 2 人以内、電気科 1 人以内、電子科 1 人以内、建設工学科 1 人以内）

本校における学業と両立させる強い意志があり、学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者
(セーリング競技(男子)、(女子))
経験の有無にかかわらず、本校の部活動に所属して活動を3年間継続できる者
(バスケットボール競技(男子))
県大会で団体ベスト4以上の中心選手であるか、または、同等の優れた能力を持つ者

選 抜 方 法		
1 選抜資料の取扱い		
(1) 調 査 書	点数化する。	
	評定（第１～３学年の各教科の評定を換算）	70点満点
	中学３年間におけるスポーツ・文化・地域活動の取組状況等	最高 15点
	合 計	85点
(2) 総合問題	30点	
(3) 個人面接	A、B、C、D、Eの５段階で評価する。	
(4) 実技検査	A、B、C、D、Eの５段階で評価する。	
2 選抜方法		
(1)と(2)の合計点数をもとに、個人面接の評価・実技検査の評価並びに調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。		

《名張高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）		
新体操競技（女子）	（総合学科	5 人以内）
柔道競技（男子）	（総合学科	5 人以内）
柔道競技（女子）	（総合学科	5 人以内）

応 募 資 格
（新体操競技（女子）） 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属して積極的に活動し、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 （柔道競技（男子）） 全国大会若しくは東海大会又は近畿大会出場の選手であるか、あるいは同等の優れた能力を持ち、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者 （柔道競技（女子）） 全国大会若しくは東海大会又は近畿大会出場の選手であるか、あるいは同等の優れた能力を持ち、本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者

検 査	実 施 概 要	
実技検査	新体操競技（女子）	反復横跳び、柔軟体操、クラブの演技創作など、新体操の基本的な技能・動作と演技力の実技検査を行う。
	柔道競技（男子） 柔道競技（女子）	受身、立技、寝技など、柔道の基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第 1 ～ 3 学年の各教科の評定を換算 4 5 点満点） (2) 面 接 A、B、C、D の 4 段階で評価する。 (3) 学力検査 1 0 0 点（数学 5 0 点、英語 5 0 点） (4) 実技検査 A、B、C の 3 段階で評価する。
2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第 1 段階 面接の評価が C 段階以上である者のうち、調査書得点と学力検査得点の順位がともにスポーツ特別枠選抜の各募集競技の募集人数の 1 0 0 % 以内であることと、実技検査の評価が A 段階であることの両方の条件を満たす者 (2) 第 2 段階 第 1 段階で合格となった者を除く全ての受検者

《松阪工業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
バレーボール競技（男子） （機械科 1 人以内、 電気工学科 1 人以内、 工業化学科 1 人以内、 自動車科 1 人以内）	

応 募 資 格	
（バレーボール競技（男子）） 本校の部活動に所属して活動を 3 年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志があり、学校生活全般において、他の生徒の模範となり、リーダーシップを発揮できる者。	

検 査	実 施 概 要	
実技検査	バレーボール競技（男子）	パス、レシーブ、スパイクなど、バレーボールの基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法							
1	選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 <table border="0"> <tr> <td>評定（第 3 学年の各教科の評定の合計を 2 倍）</td><td>9 0 点満点</td></tr> <tr> <td>評定以外の調査書の記載事項</td><td>最高 2 0 点</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>1 1 0 点</td></tr> </table> (2) 面 接 次の 5 つの項目について評価し、点数化する。（3 0 点満点） ・ 志望の動機、目的意識 ・ 学科の内容への興味・関心 ・ 中学校での活動 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度 (3) 作 文 次の 4 つの項目について評価し、点数化する。（2 0 点満点） ・ 課題に即した内容 ・ 表現、展開の適切さ ・ 学科に対する興味・関心 ・ 表記の明確さ (4) 実技検査 実技検査の各内容を点数化する。（5 0 点満点）	評定（第 3 学年の各教科の評定の合計を 2 倍）	9 0 点満点	評定以外の調査書の記載事項	最高 2 0 点	合 計	1 1 0 点
評定（第 3 学年の各教科の評定の合計を 2 倍）	9 0 点満点						
評定以外の調査書の記載事項	最高 2 0 点						
合 計	1 1 0 点						
2	選抜方法 (1)～(4)の合計点数をもとに、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。						

《宇治山田商業高等学校》

募 集 競 技（募集学科 募集人数）	
相撲競技（男子）	（商業科 2 人以内、情報処理科 1 人以内）

応 募 資 格
（相撲競技（男子）） 経験の有無にかかわらず、本校の部活動に所属して活動を3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者

検 査	実 施 概 要
実技検査	相撲競技（男子） しこ、すり足、押し動作など、相撲に必要な基本的な技能・動作の実技検査を行う。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。（第1～3学年の各教科の評定を換算 70点満点） (2) 面 接 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。 (3) 学力検査 50点（国語） (4) 実技検査 A、B、C、D、Eの5段階で評価する。
2 選抜方法 次の各段階に該当する受検者について順に、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項を考慮して総合的に選抜する。 (1) 第1段階 面接の評価がC段階以上である者のうち、調査書得点の順位と学力検査得点の順位がともにスポーツ特別枠選抜の各募集競技の募集人数のおよそ100%以内であることと、実技検査の評価がA段階であることの両方の条件を満たす者 (2) 第2段階 第1段階で合格となった者を除く全ての受検者

《尾鷲高等学校》

募 集 競 技 (募集学科 募集人数)	
水泳競技(競泳)(男子)	(普通科 2人以内、 情報ビジネス科 2人以内、 システム工学科 1人以内)
水泳競技(競泳)(女子)	(普通科 3人以内、 情報ビジネス科 2人以内)

応 募 資 格
(水泳競技(競泳)(男子)(女子)) 次の(1)～(2)の条件を全て満たすこと (1) 中学校の部活動又は地域のクラブチームに所属し、積極的に活動した者 (2) 本校の部活動に所属して3年間継続するとともに、本校における学業と両立させる強い意志がある者

検 査	実 施 概 要
実技検査	水泳競技(競泳)(男子) 水泳競技(競泳)(女子) (1) 200m個人メドレー (2) 50m自由形 ※タイム測定を実施する。 ただし、天候や施設・設備の状況により検査会場が使用できない場合は以下の(3)・(4)・(5)を行う。 (3) 反復横跳び (4) 垂直跳び (5) シャトルラン ※ 運動能力テストの実施要項に従って実施する。

選 抜 方 法
1 選抜資料の取扱い (1) 調 査 書 点数化する。 普通科(第3学年の各教科の評定の合計 45点満点) 情報ビジネス科(第3学年の各教科の評定の合計を2倍 90点満点) システム工学科(第3学年の各教科の評定の合計を2倍 90点満点) (2) 面 接 次の4つの項目について評価し、A、B、Cで評価する。 ・ 本校、本学科を志望する動機、目的意識 ・ 学科の内容についての理解 ・ 高校生活への意欲 ・ 面接態度(応答の的確さ、明瞭さなど) (3) 学力検査 100点(数学50点、英語50点) (4) 実技検査 実技検査の各内容を点数化する。(30点満点)
2 選抜方法 (1)～(4)をもとに、調査書及び「スポーツ特別枠自己推薦書」の記載事項(過去の競技実績等)を考慮して総合的に選抜する。